

# 藝園草牧

秋植苗木球根類特集号







# 果樹栽培の

## おすすめ

「果樹をお植えなさい」というと、大抵の方は、「果樹はねえ」と一度は首をひねりません。しかしその反面、未経験の方でも果樹の良さを十分に活用されて立派な経営を行っている方がまた極めて多数おられることを忘れてはなりません。このように生きた実例がありましても、一般の方は敬遠されるようです。なる程、栽培管理が他作物と異なり大変難しい。収支のバランスがとれる迄十数年はかかる。例えば、北海道庁の調査では、栽植後十年目で反当生産費一、二、三三円。生産物価格二、八〇〇円でやつと黒字になります。しかも収獲物がとれる迄は五、六年はかかり、他の作物に比し大変年数のかかるものです。更に病虫害予防のための設備は、他の作物では考えられない程その設備費は一度に多額を要します。この外品種的に見ても、果して収獲した時にどうなるか予想がつかかねるなどの欠点があります。このようなことからして

果樹栽培は難しいという先入感をお持ちになられる方も多いのではないのでしょうか。また植付けの失敗などは、最初十分に気をつけて良い苗木を選ぶことにより十分防止することが出来ます。要するに栽培をしようとする決意と努力の如何ではないでしょうか。良く研究して着手すれば問題はなく、古い因習にとられるよりも、初めて栽培される方が却つて新しい技術を積極的に取入れて成功しておられる例が多いのはこの理由にもよるわけです。この外果樹園開設前の研究不足から、適地でもないところに無理をして植え込んで失敗された方も多いことでしょう。例えば、南方の果樹を寒い北方地帯に植えたり、同一種類でも生産物の値段が高いからといって立地条件をかえりみず、いきなりその土地に適合しない高級品種を植えて失敗された方も多くあることでしょう。しかし、これらのことは、植付前に十分検討することによりいく

らでも失敗を防止することができます。一方果樹は、他の作物に見られない点を非常に多く持つております。例えば、他の作物などのできないような砂丘地、川原などの荒地、更に日本のような山の多い、耕地の狭い国では傾斜地の利用ということは非常に大切なことでありますが、果樹はこの傾斜地を有効に利用することにおいて他の作物に比し大変有利です。次に果樹園の傾斜地利用の状況を示しますと第一表及び第二表の通りです。すなわち昭和十六年度の調査では、果樹総合面積一七六、四六七町歩のうち傾斜地果樹園は実にその四六%を占める八一、九〇〇町歩になつています。更に園をなさぬものうち、山に植えてあるものを加えればその比率は大きくなることと思えます。

参考迄にわが国の土地の利用状況を見ますと、第三表の通りであつて、畑の四五%は、所謂傾斜地であります。更にまた果樹園の傾斜地の利用状況は、第二表の如く傾斜地果樹園八一、九〇〇町歩のうち、傾斜度が一五度以上という急傾斜地が約六四%をしめ、そのうち傾斜度が三〇〜四五度というところが二〇%、実に四五度以上もあるところでさえ四%という数字が出ております。このように果樹は非常に傾斜地に栽培されております。生産力は勿論平坦地の方

例えば青森県のリンゴについて見れば、第四表の如く生産力は河岸地の肥沃な地帯の七割五分程度であります。しかし日本の現状では、平坦地は、主要食糧の生産に振り向けなければなりません。勢い果樹は傾斜地という事になります。これらの傾斜地は果樹を取入れることによつて十分利用の道があります。考えてみて下さい。おそらく三〇度以上の傾斜地で果樹に匹敵する

### 牧草と園芸 八月号 目次

- ◆表紙写真 北大農学部温室
- ◆果樹栽培のすすめ……………二
- ◆果樹の植付けは適地適作(適種適品種)で……………四
- ◆苗木の植え方について……………五
- ◆りんごの品種について……………六
- ◆梨の種類(品種)について……………九
- ◆雪印ブドウ苗のお知らせ……………三
- ◆果樹園の土壌管理は草生栽培で……………三
- ◆果樹苗木特性並びに価格一覽表……………四
- ◆庭園樹と街路樹には是非雪印の優良苗木を……………六
- ◆秋植球根類の植込み方……………七
- ◆秋植球根類の価格表……………六

第一表

種類	傾斜地		平坦地		園をなさないもの		計
	栽培面積	割合	栽培面積	割合	栽培面積	割合	
蜜柑類	四七三	七二%	二五三	五七%	二二三	四一%	五八七
柿	六五九	四七%	四六三	三三%	三三〇	二四%	四七二
リンゴ	六二七	三三%	一四九	九%	五〇	四%	七二六
栗	六〇番	四八%	一三番	八%	六番	四%	七四番
梨	四四二	三六%	七九	三%	八八	七%	五二九
梅	二二二	九四%	一四七	二六%	七四	六%	三六三
ぶどう	三六七	元六%	三九八	二六%	三三	二%	七三三
桃	二六五	四四%	三〇七	二一%	五三	四%	六二五
枇杷	三三九	七二%	三三	二%	六六	五%	四三二
無花果	一〇二	二五%	三八	元四%	六九	五%	一〇九
李	一〇二	二五%	三五	二%	五五	四%	一〇八
計	八二〇	四六%	四〇四	三九%	四四	三%	一二六八

第二表

種類	栽培		15度以下		15〜30度		30〜45度		45度以上	
	面積	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合
蜜柑類	四七三	二四%	二二二	二四%	二〇二	四四%	二六九	七二%	二二六	五二%
柿	六五九	三九%	三九三	五九%	二〇〇	三二%	五七	八%	九	〇%
リンゴ	六二七	三三%	三九五	五八%	二二二	三七%	二四	三%	〇	〇%
栗	六〇番	四八%	二二四	三五%	一五三	二二%	一七〇	元四%	五	〇%
梨	四四二	三六%	二二四	四五%	一六三	三五%	六三	三%	二	〇%
梅	二二二	九四%	二二九	一〇〇%	一四二	六四%	五	〇%	一	〇%
ぶどう	三六七	七二%	一七三	四六%	一九〇	五二%	一〇	二%	一	〇%
桃	二六五	四四%	一四〇	五二%	一〇六	四〇%	二九	七%	二	〇%
枇杷	三三九	七二%	一七三	四六%	一九〇	五二%	一〇	二%	一	〇%
無花果	一〇二	二五%	八八	八六%	一四	一三%	一	〇%	〇	〇%
李	一〇二	二五%	三五	二%	五五	四%	五	〇%	〇	〇%
計	八二〇	四六%	三六三	三九%	三六六	元九%	一七〇	三〇%	三三	三%

す。この表のように稲作と比較して、リンゴの作況は冷害に左右されません。このことは気候の不安定な東北、北海道においては大いに考えて良いのではないのでしょうか。

更に、青森県リンゴ協会の渋川氏の調査を見ましよう。第六表のように一目瞭然です。すなわち、リンゴの収益性は、米のそれに比して遙かに高いことがおわかりのことでしょう。現在日本一を誇り『リンゴの青森か』『青森のリンゴ』かといわしむるようになった青森のリンゴは実に昭和五年より始まった大冷害の打開策として取入れられたものに外ならないのです。勿論この成功は、先覚者達の尊い体験や研究が十分に活用され実を結んだ結果であることは今更言う迄ありません。秋、奥羽線の車窓より眺められる津軽の山野は、ただ真赤に枝もたわわ

実地	緩傾斜 五〜二五度		急傾斜 二五度以上	
	面積	割合	面積	割合
水田	二三八	五〇%	二八	九%
畑	一五〇	七〇%	二七	九%
計	三八四	一三五%	五五	一四%

に実つたリンゴ園の連続です。年生産額百億円、青森はリンゴでもつております。この事実、ひとりリンゴのみではありません。果樹の特性を十分にいかして更生したところは、まだまだいくともあります。北海道において昔時練の千石場所とうたわれた日本海岸の塩谷村は、昭和年代に入り不漁続きにより大変さびれてきました。しかし唯一一人の先覚者によりブドウの栽培が行われ、その成果は現在北海道一のブドウの村として立派に更生し、北海道ブドウの特性を利用し、東京市場に迄もその名をなさんとしております。この結果北海道における日本海岸の不漁地帯は、現在果樹を取り入れることにより、狭い耕作面積を利用して、新しく立ち上がろうとしているところが非常に多いのです。この外本州南部の柑橘地帯においても然りであつて、特に傾斜地の利用の点から果樹は大いに利用されております。傾斜地利用の面から見れば柑橘などはその最高を行つております。例えば、傾斜一五〜一六度のものが四三・四%、次いで三〇〜四五度二七・一%、四五度以上というものが五・一%で一五度以下は僅かに二四・四%しかありません。その殆どが一五度以上といわれる急傾斜地です。ブドウにおいても同様です。海岸の砂丘地帯、更に山形、山梨、大阪などの如く傾斜地が十分に利用されていることはいふまでもありません。これから開拓されるところは傾斜地が多いのであります。府県においては、所謂高冷地です。そこに行われる農業経営の形態は自ら限定されて来ます。すなわち果樹が酪農です。この二つを比較して論議はまちまちです。ここでは両者の比較論は止めましよう。どちらにも一長一短があります。しかし将来はどちらかといえば果樹経営の方が有利だと思われます。北海道においても昨年の冷害をかえりみて果樹を耐寒性作物として積極的に取り上げ、リンゴを中心として果樹増殖五カ年計画を樹立し本年度より着手いたしました。これらの対象となるところは五〜一五度位の傾斜地です。ここで問題となるのは土壌の流亡です。これに対しては草生栽培を全面的に取り入れることによつて十分防止することが出来ます。更にこの草を利用して乳牛の導入が可能となり、ここに果樹園路農という西欧諸国に見られる経営形態が生ずることになります。現に青森県の八戸市の岩館氏はこの方法により立派に成功しており、リンゴの反収としては夢とさえいわれていた三百函を十分に生産しておられます。この外に岩手県でも開拓地にこの経営方式を推進しており、将来この種の方

第四表 地形 リンゴの生産力(反当)

実数	100	100	100
指数	100	92.1	76.3
		河岸地	山地

式は、非常にふえてくるのではないかと思  
います。果樹と酪農の結びつきは古くから  
あります。酪農家の方々が良く御存知のオ  
ーチャードグラスの出所は？果樹園をオー  
チャードと英語では呼称します。昔時果樹  
園は、この草の生えているところに存在し  
たのではないのでしょうか。果樹が主にな  
るか酪農が主になるかは、その地の状況によ  
つてそれぞれ異つてきます。北海道におけ  
る昨年の冷害において一応安定した生産を  
上げ得たのは、果樹関係と酪農関係ではな  
かつたのでしょうか。道北の気候的に無理な  
地帯に逆リンゴや葡萄の栽培をおすすめす  
るではありません。しかし、北海道中部  
以南の果樹適地で耕地面積の狭いところ例  
えば松山、渡島、その他のところでは、未  
開墾傾斜地などを利用しての果樹の増殖は  
大いに考えてしかるべきではないでしょう  
か。また道北部にはその地方に適した耐寒  
性の強いクラブリンゴあるいは木苺類、グ  
スベリなどを植

第六表 米とリンゴの収益性(反当)

年次	米(A)		リンゴ(B)	
	平均	合計	平均	B/A
昭和五〜九年	三三.四	三三.四	五九.一	一.七六
昭和十〜十四年	一四七.元	一四七.元	一〇三.七	〇.七〇
昭和十五〜十九年	一四七.三	一四七.三	一三三.五	〇.九〇
昭和二十〜二十三年	二九五.九	二九五.九	一六三.三	〇.五五
昭和二十四〜二十八年	二七四.三	二七四.三	一四〇.四	〇.五一

△は損失を示す

第五表 註 平年作を一〇〇とする

年次	稲作	リンゴ作
大正二年	三三	三〇
昭和六年	五〇	五〇
昭和九年	五〇	五〇
昭和十年	一〇〇	一〇〇

は、リンゴの反収は現在の樹形でも七百貫  
位は挙げる事ができるといつています。  
そうすれば、近年の価格の最低値で考えて  
みましても反当五万円以上の粗収入となり  
ます。更に、青森県の一指導者の言をかり  
れば、農家経営で粗収入八十万円程度を上  
げるのならば、一町一町五反程度の耕地  
で足りるということであります。果樹の栽  
培は確かに他の作物に比して複雑なことは  
事実です。しかし、その方法の如何によつ  
ては、他の作物に見られぬところの持味が  
あります。特に他の作物の不適當な傾斜  
地、荒地、砂地、石原の利用に有利なこと  
は前記の通りです。徒らに流行を追うこと

# 果樹の植付けは 適地適作(適種適品種)で

「適地適作」とは今更あらためて説明する  
事は無いと思ひます。しかし此処であらた  
めて標題といたしました理由は、果樹は他  
作物とは異なり永年作物です。一旦植付け  
られれば半永久的にその栽培は継続されま  
す。スタートにおいて失敗すれば、その取  
返しはなかなかつきません。一攫千金を夢  
見て、いたずらに適作でないものを取入れ  
る事の無い様に、最初に十分気候、風土を  
考えてそれに適合した種類を取入れる事が  
大切です。

例えば、蜜柑がいくら良いからと申しま  
しても、とても北海道では見込は有りませ  
ん。併し梨について考えてみますと、現在  
和梨では二十世紀が大変高値で取引されて  
おります。この品種は大変気候風土を選び  
ます。特に黒斑病に対しては大変弱い品種  
で、その予防に關しましては不適地では大  
変苦勞をいたします。例えば、袋掛けを三  
度、ポルドウ液の撒布を十五回も行うとい  
う例もあります。その費用は莫大なもので  
しょう。この病氣は、五、六、七月の降水  
量が三百耗以内のところでは、余り発生は  
いたしません。かような地帯では、二十世  
紀の方が長十郎より収量も平均している  
の事です。現在主要産地は鳥取県と長崎県  
の伊那地方です。これに類似したところで

は良く出来る事と思ひます。今、梨を一例  
に上げたまでですが、このような事例は他  
の果樹でも数多くあります。従つて自分の  
園地の環境を良く考え、最も作り易く、収益  
の上るものを選定する事が大切です。前に  
ものべましたが、一旦植付けがすんだら半  
永久的には動かさねないものです。十分に  
考えてから計画樹立の上スタートして下さ  
い。市場の要望も考慮に入れる事も大切で  
しょう。又その品種の特性を十分に發揮さ  
せる事によつて思わぬ良い結果を得る事も  
あります。リンゴにおいて、旭は一般に酸  
味の強い品種として余り喜ばれておりませ  
ん。併しこれは、栽培者も考えねばなりま  
せん。特に府県では、早生リンゴの後、紅玉  
の出る間のつなぎと考へて、色が赤いため  
成熟に至らぬうち収穫して出荷させるため  
もあります。又暖地ではこの品種は着色も  
悪く、その特性を十分に發揮してはおりま  
せん。併し、寒い地方、北海道でも札幌以北  
の旭は、形こそ小さいですが、その色とい  
い香氣といひ申し分ありません。しかして  
耐寒力もきわめて強く、又、貯蔵力も十分  
にあり、その特性を利用しての販売を行う  
と大変有利に販売される事でしょう。事実  
本年一月に開催された、全国果実品評会に  
於いて、北海道の北空知の音江農協の出品

# 苗木の植え方について

した旭は二等賞に入賞しておりますが、その反響はいちじるしく、将来これが大量に出荷されれば、同時期に出荷される青森県の国光は一大脅威を受けるのではないかとさえいわれております。又、戦後米国より輸入されたレッドゴールドは輸入当時大受評判は高かつたのですが、府県に於ける試作の結果は余り芳しくはなく、大受不評の声を耳にします。併しながら、北海道において特に北空知の方の試作では大受好評という事で、今後同地方には増殖される事と思ひます。この反面現在全国のリング栽培面積の半分をしめるといわれる国光は、青森県においてこそ、その真価を發揮しますが、この品種がいくら作り易く、しかも豊産で有るからといつても、北海道(道南の一部を除き)においてこの品種を作るといふ事は避けねばなりません。今、北海道を一例に挙げて見ますと、中部以北と道南渡島地方とでは幾分趣きを異にいたします。後者は割合に氣候条件も恵まれ、むしろ青森の延長のように考えても良いでしょう。此処で生産されるゴールデン、スターキング等は府県産の物に比較して何等遜色はなく、かえつて貯蔵力が大きいのので、販売面では有利でしょう。又、この地方の長十郎は、貯蔵力極めて大きく、しかも味も大受美味です。このように道南地方においては幾分おもむきを異にしております。前述の旭は、北海道においては北空地以北の上川、網走等において増殖はまだまだされても良いでしょう。この事は、本年北見地方で大量の旭の増殖によつてもしめされております。

す。北海道に於いては、十分その品種の特性を考え、氣候、風土を考慮に入れることにより、北方地帯の品物が貯蔵のきく事を考えれば、まだまだ栽培の余地はある事でしょう。一面梨について見るならば、長十郎は前記の渡島松山地方に於いてこそ栽培は有利ですが、その他の地帯は完熟する迄にいたらず、自家用ならばともかく、販売用には不向きと考えられます。更に前述の二十世紀においては、全く自家用として一二本程度の事は考えられますが、これとても道南地方に於いてのみ栽培を試みてよろしいかと思ひますが、他の地方では全く栽培は考えられません。北海道に於ける梨の適品種として考えられるのは、千両、北海早生で、この両者なれば相当寒い地帯でも栽培は可能です。更に、北方の根釧原野や天北地方等では、耐寒力きわめて強いグラブ系リングや、小果樹類はいかかでしょうか。これらの果樹は自家用として十分に御役に立つ事でしょう。開拓地等では、環境を考え適種適品種を導入する事により将来の見通しは明るくなつて来る事でしょう。

例を北海道に挙げたまでですが、同様の事は他府県に於いてもいわれる事でしょう。特に始めて果樹を植えられる方は、誇大宣伝にまどわされる事なく、指導機関や先覚者の意見を十分に考慮の上、導くべき種類や品種を決定していただきたいと思ひます。

将来の楽しみをゆめ見ながら植えた苗木が、取扱いが悪かつたり、定植方法がまづかつたりしたため、活着せずに枯死し、折角の苦心も水の泡となつたという話は、屢々耳に致します。併し、苗木は簡単に枯れるものでしょうか。全然経験の無い方でも立派に成功している方もあり、相当経験している方でも失敗される場合もあります。以下簡単ではありますが、苗木の定植方法に就き説明してみます。

一 苗木の取扱ひ  
苗木を入手致しましたら、定植のする迄の間、例えその期間が短くとも、直ちに苗木を図のように伏せて、水を十分根元に掛けておきます。若しも入手した際に既に苗木が幾分しおれているようでしたら、一乃

至二日間位小川等に根を浸漬いたします。一般に定植に失敗する最大の原因の一つは、定植する迄の取扱ひの不備に依る事にあります。特に根を乾燥させない事が肝心ですから十分注意して下さい。

二 栽植距離  
定植する時の栽植距離は、苗木の種類に依り異なりますが、最近の傾向といたしましては、一般に広くなつて参りました。次に各種別に大体の規準を表示いたしますと、次表の通りです。

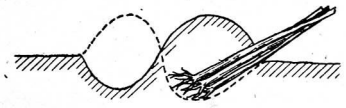
種別	栽植距離	反当栽植本数	備考
りんご	四~五間	二六~三〇本	印度等は広く
梨	三~四間	二八~三〇本	
桃	三~四間	一八~三〇本	
李	三間	三〇本	
ぶどう	三~三.五間	四〇~三〇本	
桜桃	四.五~五.五間	一五~二〇本	

註 土地の肥沃度に依り瘠地は狭く、肥沃地は広く適宜変更致します。

三 植え付け方法  
植え穴は、例え春植えでも秋に準備いたしましょう。秋植の場合は、大体定植の二、三週間前から準備しておきます。

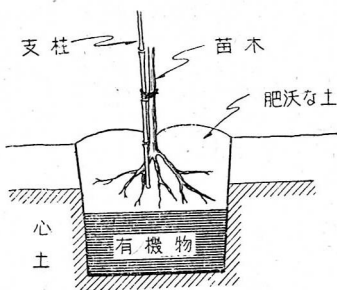
穴の大きさは、色々といわれておりますが、大体深さ三尺、幅五尺位が適當です。掘りましたら先ず粗大有機物(葉糞稗類

苗木の伏せ方

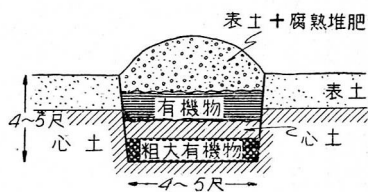




苗木定植の図



植穴の大きさと準備



等)を土と交互に入れながらよく踏み固めます。  
 この際十分に土と混合して下さい。有機物の量は五十〜百貫位必要といわれております。果樹は一度植え付けられると半永久的な作物ですから、最初の準備こそ大切です。  
 多少苦労いたしますが、丁寧に行つて下さい。その上に腐熟堆肥を入れ十分土と混和いたします。更に最上層には、肥沃な土

を中高にして盛上げます。地表面位ですと雨が降つた場合は、くぼみますので注意して下さい。  
 植穴の準備が出来ましたらいよいよ苗木の定植です。

根に根頭癌腫病のある場合は、惜しむ事なく焼却して下さい。

根を十分に拡げながら土が根と密着するように良く土を掛け、根際を軽く踏み固めた上に更に土をかけます。植込みの深さは接目が大地表と一致する位が最適です。土が乾いているようでしたら十分水をかけ更に藁等で敷藁致します。次に支柱を建て風による動揺を防ぐ事が大切です。

植え付けが終了したら地上部を切りつめるわけですが、りんご、梨では、三尺乃至三尺五寸、梅等では二尺内外、葡萄では発育の良い芽二つを残して短く切りつめて下さい。

定植後芽を出した後に、降雨等で土が湿つた折など追肥を出来るだけ多く行い、樹の成育を計る事が大切です。一般に苗木だといつて軽く取扱う事は、将来の為、最も良くない事ですから十分注意して下さい。

苗木を定植する際に最も大切な事は、苗木を乾燥させない事です。特に遠方から入手した時、春の乾燥しやすい時などは、苗木の根部を三〜四日間位水に漬けて、十分水を含ましてやると苗木の活着が大変良好です。

以上簡単に苗木の植え方に就いて説明いたしました次第です。

## りんごの品種について

一口にりんごと申しますが、誰しも「りんご」といわれれば、「りんごの歌」で、また、童謡に「私は真赤なりんごです」と唱われたように、秋真紅に輝いてデパートの果物売場や、果物屋の店頭に並べられている赤いりんごを連想される事と思います。併し、りんごは赤い物だけではなく、りんごの有名なゴールデンデリシャスの如く、その輝く黄色に薄紅をさしたように陽向面に微紅色を呈した物の美しさはなにもにも例えようがありません。



この他その熟期におきましても、早中晩の区別があり果色に関しても赤物、青物等といわれるように種々あり、更に形の大小、味の良否、用途においても生食用、加工用、醸造用(特に欧米では、リンゴ酒の原料としてのりんごの栽培は、生食用をはるかに上廻つている)等と種々ある事は、あらためていう迄

も無い事と存じます。また、同一品種について、例えば国光を例にとつて見ても、その着色の程度により一、二、三系等というように系統が分かれております。また、同一品種においても、その栽培される地帯の

気候、土性等によつてそれぞれ異つてくる事はいう迄もないのであります。

例えば、気温のみについて見るならば、早熟種は割合に寒暖両地を問わず栽培されるが、紅玉等は、真夏において相当温度の高い地方でも、春秋急激に温度の下がる地

方では良品を産し、特に色沢は良く発現致します。しかし貯蔵力においては余り適せず、むしろ北海道の如き寒地産のものが優れております。また、旭は暖地になればなる程色沢は勿論、食味もその真価を発揮するに至りませんが、北海道産特に北空知の北において栽培された場合始めてその真価が十分に発揮され、これが将来東京市場に出た際は、他府県産の国光、紅玉等は太刀討出来ぬのではないかとさえいわれてきております。併し、国光等は青森県においてこそその真価は十分に発揮されますが、北海道では道南を除き年により完熟に到らぬ事さえあります。また最近登場のレッドゴールドは、府県においては色々不評を生んでおりますが、北海道においては相当良質な成績を上げており、将来この品種の栽培に期待がかけられるようになってまいりました。

このように、一口にりんごといつても、数多くの品種があり、その各々が特有の性質を持ち、しかも栽培環境により特性の発揮が異つてゐる事を考えますならば、栽培品種の選択は大いに研究せねばならないところであります。りんごの品種は、その栽培が古く有史以前より始められていたためその数は非常に多く、おそらく何千にものぼる事と思ひます。例えば、米国のヘドリック氏は、米国において栽培されたものだけでも二、五〇〇種と述べ、また、ニューヨーク農試の「ニューヨークのリンゴ」には六三〇種をあげております。日本においても明治初年以來米國を始め色々な國より輸入され、これにわが國で育成された品種を合

せれば、おそらく五〇〇種を上廻る事でしょう。併しながら、その内、現在私達が店頭で容易に買求める事の出来る品種は、僅かに十指を数えるに止まり、併も、その内の七、八割が、紅玉と国光とによつてしまつてゐる事実は、いかにこの二品種が市場性もあり作り易いという事を証明しているかがわかります。一つの品種が普及される迄には長年月を要する事はいふ迄もありません。現在りんごの王としてその地歩を固めつつあるゴールドデンリシヤスが、島博士に依り日本に入つたのは、大正十二年です。併し現在なおその栽培面積は、全国のりんごの栽培面積の〇・五%にしかすぎないのです。その外にも例を挙げればいくともあります。また、この反対に昔盛んに作られた物で現在衰退したものも数多くあります。倭錦等は、その好例で、いかに外觀が良く豊産であつても、味の点において他の物に比し数段劣つてゐる事は、この品種の致命傷といわれましよう。新しい品種は今後も続々あらわれて参りましよう。戦後米國より輸入紹介されたものだけでも、レッドゴールドを始めとし十数種に上つております。また、わが國においても、青森県りんご試験場、東北農試園芸部、長野農試等より戦後幾多の新しい品種が発表されその一部は、農林省の登録品種となつております。併しこれらはいずれも一長一短があり未だ急速に伸長しておりません。此等の内将来性あるものとしては、アーリエスト、レッドゴールド、恵、紅生娘等でしょう。現在米國で増殖の盛んなのは、スターキングデリシヤス、紅生娘等で、わが國では、

第一表

北海道	青森	岩手	秋田	山形	福島	長野	山梨	香川
六〇%	三三%	七〇%	五〇%	三九%	二〇%	一〇%	四四%	九五%
六八%	二八%	一七%	五〇%	二六%	三〇%	三〇%	二七%	五五%
二五%	四一%	四三%	三〇%	三〇%	七八%	三三%	一四%	一四%
一九%	三二%	〇七%	〇七%	二七%	一七%	一〇%	一〇%	一〇%
一九%	三〇%	六八%	三二%	一七%	三〇%	三〇%	一四%	一四%
一九%	三〇%	六二%	三〇%	三〇%	三〇%	三〇%	四八%	一〇%
一九%	三〇%	九五%	三〇%	三〇%	三〇%	三〇%	一〇%	一〇%
一九%	三〇%	七〇%	三〇%	三〇%	三〇%	三〇%	一〇%	一〇%

東北地方、長野県では、スターキングデリシヤス、を主体としゴールドデンリシヤス等が多いようです。始めてリンゴを植えられる方は、十分指導機関の方針や経験者の第二表

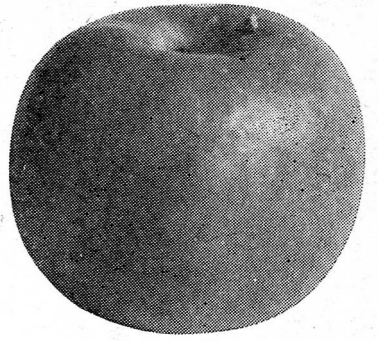
品 種	早 生			中 生		晩 生	
	ア ー リ レ ッ ド	紅 魁	黄 魁	祝 計	旭 計	紅 玉	国 光
品 種	計	計	計	計	計	計	計
道 全	五	五	五	六	二〇	三〇	三〇
南	五	五	五	二五	二五	二〇	二〇
中	五	五	五	二五	二五	二〇	二〇
北	五	五	五	二五	二五	二〇	二〇

意見等を尊重の上導入すべき品種を決定されるべきであります。次に、御参考迄に各府県別の品種配合状況を表示いたしますと第一表の通りです。北海道における道庁の指導要項によりますと、品種の各地方別の配合割合は第二表のようになっております。

今此処で各品種の特性を十分に把握して置く事は、決して無駄では無いと思ひますので以下主要品種に就き筆をすすめて参る事にいたします。

アーリエスト

本種は、現在日本で栽培されているリンゴの内一番早く熟するといわれており、桜桃の収穫後すぐ収穫が出来ます。色は全面美しい紅色で覆われ、味も早生種としては酸味も弱く品質も優良です。豊産性の高いリンゴで、果実の大きさは、黄魁よりも大きく、また熟期も黄魁より一週間乃至十日位早く早生リンゴとして今後期待を持てます。



レッドゴールド

### レッドゴールド

ゴールドデンデリシヤスの実生といわれており、形は紅玉に類似し、大きさは四十匁級です。色は全面輝しい紅色で覆われております。風味及び香りは丁度スターキングとゴールドデンデリシヤスを混和したようなもので品質は優良です。熟期は旭と紅玉の中間位で、この時期に良い品質のリンゴの余り無い時でありますので需要は多いと考えられます。また、このリンゴの最大の特徴は、結果年齢に入る事が早く、ゴールドデンデリシヤスと並び称されております。事実当社の育苗圃場において二年苗で多数の花を着生したものもあります。結実性も自家結実性といわれる位良く結果いたしました。このリンゴは、既に説明いたしましたように、輸入当時その特性が余り高く評価されたため、府県において競つて植え付けが行われました。しかし試作の結果余り成績は良くなかったため、最近では余り以前程知られておりません。しかし、北海道の空知地方における試作の状況を見ますと割合に良く、将来同地方においてこの品種の栽植

はある程度考えても良いのではないかとさえいわれております。

### ゴールドデンデリシヤス

本種は、色が黄色なものと薬剤に弱く、果実にさびが出やすいため従来余り栽培されておりましたが、その風味はなんとも例えようはなく、真にリンゴの王者たる風格を備えております。しかも結果年齢に入る事が早く、豊産性であつて隔年結果性もすくなく、今後その美麗な外観と特有の風味と相俟つて高級リンゴとしての地位を占むる事は全く疑いの無い品種といえましよう。最近各府県においてはこの品種の増殖を行いつつあります。

### スターキングデリシヤス

本種はデリシヤスの枝変わりで、デリシヤスに比し着色が二週間早く、果実は全面暗濃紅色で覆われる。風味は現在栽培されているリンゴ中でも最も良いといわれ、日本における高級リンゴの第一人者であります。現在わが国において増殖の最も盛んに行われている品種であつて、暖地産のもの果形も大きい貯蔵力は余り無いようではあります。北海道地方では、デリシヤス系は形こそ小型ではあります。貯蔵力は大変大です。なおこの外同系統にはリチャードデリシヤスがあり、北海道の北空知地方は当品種が適するようです。

### 王 鈴

本種は、青森県のリンゴ試験場が育成して戦後新しく登場した品種です。ゴールドデンデリシヤスとデリシヤスの組合せより育成され、色はゴールド同様黄金色です。形はゴールドデンよりも小形のため小形ゴ

ルデンといわれております。当品種はゴールドデンに比較し葉害を受ける事が無く、銹の発生もないのでゴールドデンよりは栽培が容易ですが果実が小形のため今のところ余り普及は見られません。将来有望な品種と思ひます。

### 紅生娘

本種は生娘の枝変わりで着色は生娘に比し大変よろしいです。三倍体のリンゴであるため樹勢極めて旺盛です。栽培距離は五間位が適当です。この種の欠点としては隔年結果性の強い事ですが割合に豊産性です。果実の品質は大変良く、同時期にこの品種に匹敵するものは無いので、肥培管理に注意すれば良好な成績を挙げる事でしょう。なお熟期は八月下旬から九月上中旬です。

以上簡単に高級品種数点について記述いたしました。この外一般大衆向品種としては紅玉があります。今、リンゴといえ、赤いリンゴを思ひ出すとすでに前述の通りですが、このリンゴこそ赤いリンゴの代表種です。本種は黒点病、ゴム病等にかかりやすい品種ですが、その品質は本場のリンゴの味といわれている位で、これがため世界的にもその栽培面積は広く、わが国でも国光と共に二大主要品種となつております。今後とも基準品種としての位置は失なわれないうでしよう。ただ本種の致命的欠陥は貯蔵中におけるゴム病の発生です。この点収穫期には十分注意して採取される事を望みます。次に旭ですが、旭については既に再三登場を見ておりますので、ここでの説明は省略いたします。現在一番先に収穫されわれわれの目に触れるのは、祝でしよ

う。今年も既に山梨産の祝が出荷されていると聞いておりますが、未だ北海道では袋掛がすんだばかりの時に収穫です。併し本種の適期は全然異ります。北海道においては九月中頃でしよう。また府県においても八月末ではないでしようか。このリンゴがうつつらと着色した時のその真の味を知っている方は生産者でも余りない事と思ひます。酸味がすくないため夏リンゴといわれて早期に収穫される事は、この品種にとつて甚だ迷惑な事と思ひます。只欠点は日持が余り良くない事です。栽培者はこのため幾分早もぎの傾向がありますが、現在のよ

うな収穫は一考を要する事でしょう。説明は省略致しましたが旭を見て下さい。最近やつと一般の方々が旭の味を再認識したようです。この外早熟種としては、アーリレッドパード、黄魁、紅魁等があり、晩熟種としては有名な国光(一名雪の下)があります。今秋当社で取扱います品種は一括して価格と共に表示いたしております。説明が後先になりましたが、紅玉の枝変わりとして着色の良い「ジョナレット」があります。是非栽植をおすすめいたします。現在、わが国における現状は着色に極めて重点をおいております。デリシヤスがスターキング、リチャードに変わりつつあるのもこのためです。この外紅玉においても濃紅玉、西谷系紅玉等また国光においても着色良好な系統が最近大いに重用されております。

当社においても、これらの優良系統の収集を行い、比較検討の上、皆々様に御用立いただくようになるのも遠くありません。